

昨年4月に穴水中学校から由比ヶ丘(ゆいがおか)の本校校舎へ戻り教育活動を再開してから、あっという間に1年が過ぎました。私は始業式の挨拶で、「世の中には変えられるものと変えられないものがあります。変えられるものは『自分と将来』で、変えられないものは『他人と過去』です。今年度本校は『復興元年』を合言葉に『再生』に向け歩み始めます。変えることのできる『将来』に向け、一生懸命、後悔なく生きましょう。」と述べました。

この1年間を振り返って、皆さんは一生懸命、後悔なく生きてきましたか？

さて話は変わります、「ハード面」「ソフト面」という言葉を耳にしますが、皆さんはこの言葉の意味をどう理解していますか？

ITの分野では一般に、「ハードウェア」というとコンピュータを構成する各種機器、「ソフトウェア」というとプログラムやアプリケーションのことを指します。ハードウェアは物理的なモノ、ソフトウェアは目的を達成するための仕組みと言えます。

ビジネスの分野でも基本的には同じような意味合いで、ハード、ソフトが使われています。ハードは構造物や機械、設備などの物理的なモノを指し、こうしたモノを整備することが「ハード面での取り組み」です。一方、ソフトは社内ルールや意識啓発、研修などを指し、こうした仕組みを強化することが「ソフト面での取り組み」になります。ハードとは形のある物理的な要素のことを指す言葉であり、ソフトとは形のないものを指す言葉です。

これを現在の穴高に当てはめてみます。

震災から1年3カ月近くが経過しましたが、破損した玄関、教室、トイレ、体育館やグラウンド等のハード面では、全く復旧は進みませんでした。

しかしソフト面では、この1年間素晴らしい成果を上げました。

皆さんは限られた環境の中、不平不満を表に出すことなく、学習、部活動や探究活動に一人ひとりが前向きに取り組みました。6月の高校総体・総文、修学旅行、8月の穴高祭、9月と3月の球技大会、10月の体育祭等の大会や行事では、皆さんの歓声と弾ける笑顔を見ることが出来ました。

学習においては、すでに自分の進むべき道を明確にし、そのための努力を続けている生徒がいます。まだ目標が決まらない生徒は、1日でも早く目標を定め、目標達成に必要な力をつけるための学習に取り組んでください。

4月から1年生は2年生となります。「穴高を支える屋台骨」になるために、今年度以上の努力を期待します。そして2年生は3年生となります。最上級生として「穴高の顔」となり、高校最後の1年を悔いのないよう、1日1日を大切に過ごしてほしいと思います。

本校の先生方は、生徒一人ひとりに寄り添い、生徒が成長するために力を貸して下さいます。みなさんは、先生方を信頼し、色々と相談しながら、自分の希望する進路に向け、今できる最大限の努力をしてください。

これからも皆さんと先生方が一丸となり「チーム穴高」で一步一步前に進んで行きましょう。